

4. 全体成果概要

海域断層に関する既往調査結果の収集及び海域断層データベースの構築では、今年度は、南西諸島北部海域(沖縄本島北部～九州南方海域)の反射法地震探査データ(以下、「反射法データ」)、速度構造データ、坑井データを収集し、収集したデータの品質管理を行うとともに、既存のDBに登録した。また、データ公開に向けては、データセキュリティの重要性を念頭に置き、様々なデータの表示方法を検討し、プロトタイプを作成した。

海域における既往探査データ等の解析及び統一的断層解釈では、反射法データの一部の再解析を行うとともに、南西諸島海域で収集した反射法データを使い、断層解釈作業を行った。断層の深度変換作業は、速度構造データ、坑井データ、論文等を使って求められた三次元速度構造を使い実施し、その結果をサブテーマ(3)の実施者である国立研究開発法人防災科学技術研究所へ提供した。

海域における断層モデルの構築では、サブテーマ(2)で解釈を終えた南西諸島南部海域で得られたデータに基づいた断層モデルの構築方法についての検討を行った。また、構築した断層モデルの妥当性を、津波や地震動のシミュレーションを用いて検証するための手法を検討した。